

【事務局より】
 疫学以外の公表文献について、研究結果の分類及び分類の判断理由の案を作成しました。
 「No.」～「備考」は、基本的にリスク管理機関から提出された資料のままの記載としています。ただし、誤記と考えられた記載については赤字で修正しています。
 文献の研究結果の分類及び分類の判断理由に記載する内容について御検討ください。

No.	文献名	ジャーナル名等	公表年	著者名	著者の所属機関	書誌情報	研究分野	原著/総説	海外評価書での引用の有無	ドシエでの引用の有無	<i>in vivo</i> (動物種) / <i>in vitro</i>	用量 (mg/kg体重 又は mg/kg体重/日)	NOAEL /NOEL	LOAEL /LOEL	Klimisch コード	評価の目的との適合性に関する情報	備考	研究結果の分類	分類の判断理由
1	Anti-androgenic activities of environmental pesticides in the MDA-kb2 reporter cell line	Toxicology In Vitro24(7): 1979-1985	2010	Ait-Aïssa, S., Laskowski, S., Laville, N., Porcher, J.M., Brion, F.	Unité d'Ecotoxicologie in vitro et in vivo, Institut National de l'Environnement Industriel et des Risques (INERIS), France	https://doi.org/10.1016/j.acthis.2016.05.009 https://doi.org/10.1016/j.tiv.2010.08.014	毒性/メカニズム	原著	-	-	<i>in vitro</i>	-	-	-	-	区分c 標準的な試験ガイドラインに準拠していない試験	・MDA-kb2細胞株を用いてプレチラクロールを含む30種の農薬について抗アンドロゲン作用を調べた報告	評価に使用しない文献	・作用機序に関する文献（定性的） ・ヒト乳癌由来細胞にアンドロゲン受容体を導入発現させた細胞(MDA-kb2細胞)にプレチラクロールほか全30種類の農薬を処理し、レポーター遺伝子アッセイが行われた結果、①アンドロゲン作用は認められず、②抗アンドロゲン作用については、IC50が5.46 μmol/Lであり、相対抗アンドロゲン活性は、flutamideの0.093倍であった。 ・アンドロゲン受容体転写活性化試験(<i>in vitro</i>) [評価書案II.13(6)]では、AR-EcoScreen™細胞株を用いたアゴニストアッセイで100 pmol/L~3.16 μmol/L処理、アンタゴニストアッセイで1 nmol/L~3.16 μmol/L処理し、いずれの試験においても陰性であった。